

# 小学校第3学年道徳科学習指導案

令和4年7月13日（水）第6校時

児童数 24名

授業者 伊藤樹莉

## 1 主題名

友達と分かり合う【相互理解、寛容】〔中学年B・(10)〕【友情、信頼】〔中学年B (9)〕

## 2 ねらいと教材名

### (1) ねらい

・なまりを気にしてしゃべることができない中山君の恥ずかしいと思う心情と、そう思わせてしまう周りの人の言動についてぼくの視点から考える中で相手を理解し、認めていく道徳的判断力を高める。

### (2) 教材名

『貝がら』（廣済堂あかつき 小学生のどうとく3）

## 3 主題設定の理由

### (1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本校における今年度の研究主題は「安心できる学級・学校づくり～生徒指導の三機能を生かし、子どもの主体性を育てる～」である。令和2年度実施のアンケートにおいて、「あなたは、授業中に自分の思いや考えを安心して言えますか。」の強肯定が70.4%だった。この結果から、教師の見立てとはギャップがあり、見立てよりも大きく下回っていた。それを受け、昨年度から児童が安心して意見が言える学級づくりを目指している。昨年度末、アンケートの数値は、77.1と若干上昇しているものまだまだ課題が残る。そこで道徳科では、昨年度から引き続き、役割演技を積極的に取り入れ、自分の意見が相手に伝えやすい展開の工夫を仕組むようにしている。また、学校生活アンケートの「いやなことをされたことがある」と答える児童は77.1%と例年数値が高いことが課題としてあげられる。そうしたことから生活を振り返りながら、友達のことを理解し、助け合うことを大切にする道徳的心情を育みたい。

本主題の内容項目「B 親切、思いやり」には、「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること」とある。友達は児童にとって家族以外の特に深い関わりをもつ存在であり、友達関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向づけられることも少なくない。

「相互理解・寛容」の「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にする」とについても押さえておきたい。豊かな社会を築くためには、様々な人が関わり合い自分と考えや意見が異なる他者のことを理解し、多様さを認め合いながら助け合う必要がある。しかし、私たちは時に自分と異なる意見や立場を受け入れられず、一方的に非難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりすることがある。自分と違う、周りとは違うから

という理由で他者を攻撃するといったことは誰しもが経験していくことではないだろうか。これは、今日の重要な教育課題の一つであるといえるいじめにもつながっていく。いじめを生まない雰囲気や環境を醸成するためにも互いの違いを認め合い理解しながら、自分と同じように他者を尊重する態度を育てることが重要であるといえる。この資料では、友達関係を築くために、相手のことを理解し人と人がつながっていくためにはどうすればよいかを考えることができる。これは、友達と互いに理解し合うという価値を深めるのに適している。よりよい関係を築くために他者を尊重し、認め合う態度を育みたい。

## (2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の児童は、優しく思いやりのある児童が多く、誰に対しても分け隔てなく関わることができる。友達にやさしい声掛けをしたり、手助けをしたりする場面も多くみられる。しかし、自分のことになると相手の気持ちを考えない自分本位な言動でトラブルなることがある。また、その場のノリや雰囲気でおもしろいと思って発言したことが無意識のうちに友達を傷つけていたということもある。

そこで本単元を通して、日常生活を振り返りながら相手を理解し認め合うことの大切さを感じ、よりよい友情を育もうとする態度を育てたい。

## (3) 使用する教材の特徴や取り上げた意図及び具体的な活用方法

中山君が口をきいてくれないのは自分に対する嫌悪感であると誤解し、腹を立ててしまう主人公。ある時、一度は心を開いてくれたのも束の間、中山君はすぐに心を閉ざしてしまう。だが、その出来事をきっかけに中山君の黙っている理由がなまりを気にしていたと気付く。なまりを気にして話せない中山君の心情を捉えながら、なぜ恥ずかしいとってしまったのか、恥ずかしいと思わせたしまった周囲の言動はどういった気持ちがあったからなのか、三者それぞれの立場から考えることで、他者の立場に思いをはせる大切さを深く考えることができる。

指導にあたっては、本教材は本来なら、「友情・信頼」の価値項目での取り扱いであり、「ぼく」と「中山君」の二者の関係からそれぞれの考えを深めることができる教材であるが、本時では、教材提示の工夫や分割読みをするなどして、三者の立場から考えることでいじめ教材として取り扱いたい。教材を3分割にし、前半部分では、話しかけても答えてくれない中山君に対するぼく的心情について考える。展開部分では、中山君の話さなかった理由を知ったときのぼくの気持ちを考えながら、周囲の女子の言動が原因の1つだったということに目を向けさせ、いじめにつながる場面であるということを押さえておきたい。

終末には、元気になって学校に行った場面を役割演技させ、どのような言葉を掛け合ったのか考えたい。全体でも共有しながら、2人の関係性の変化を捉えられるようにしたい。

4 学習指導過程

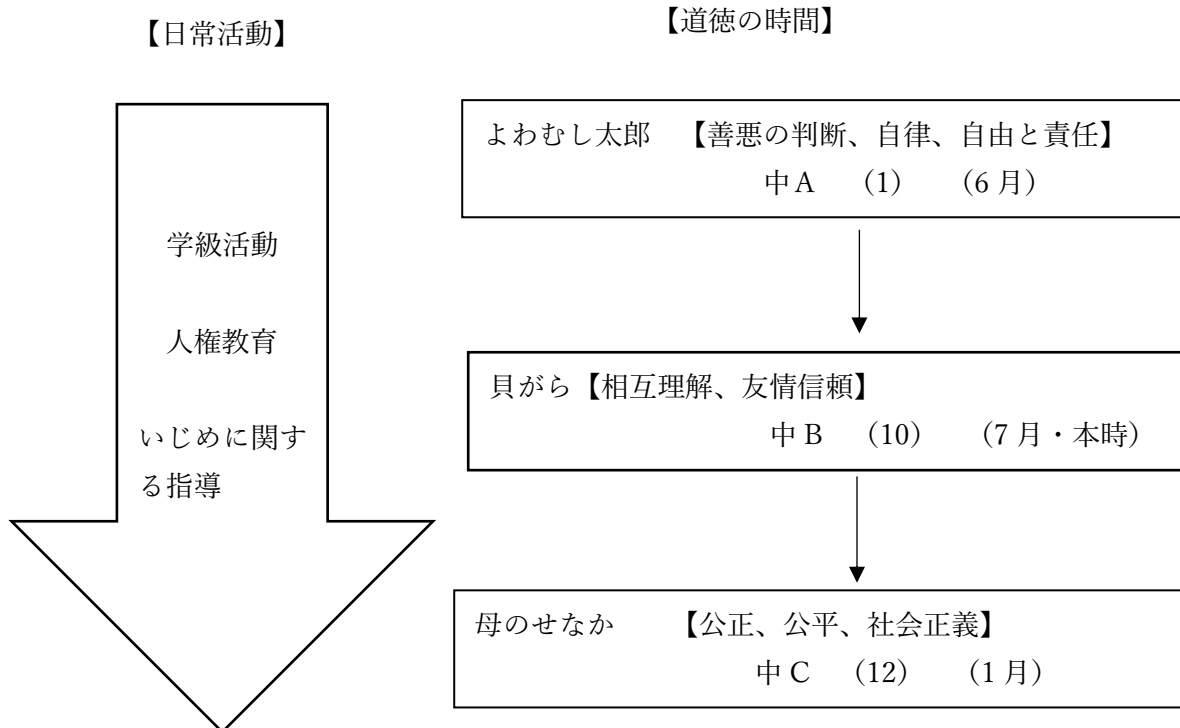
	学習活動	主な発問 (○) と 予想される児童の反応 (・)	指導上の留意点
導入 5分	1. 友達について考える。	○無視されたと思った時、みんなはどんな気持ちでしたか。 ・すごく悲しい気持ちになった。	◇本時の価値への方向付けを図る。
展開 10分  20分	2. 教材をもとに話し合う。 ・教材を分割にして読む。  3. 話の続きを聞き、気持ちの変化について話し合う。  4. 話の続きを聞きペアで考え役割演技をする。	○返事をして、もらえなかった「ぼく」は中山君のことをどう思っていたでしょう。 ・話しかけても無視されるから仲良くなれない。 ・すごく嫌な感じがする。 ・なにか悪いことしたのかなと思う。 ・中山君が話さない理由が知りたい。  ○「ぼく」の気持ちはどのように変わりましたか。 ・返事をしてくれてうれしくなった。 ・中山君傷ついていたんだなあと思った。 ・なんで女の子は笑うんだろう。  ◎自分がぼくだったらこの後どうする。 ・笑っている人に変じゃないよと言ってあげる。 ・話しかける。 ・大丈夫だよと声をかけてあげる。 ○「ぼく」は布団の中でどんなことを考えていたのかな。 ・お礼を言いたいな。 ・今度は遊ぼうって声をかけたいな。  ○「ぼく」は学校であった時、中山君とどんな話をするでしょうか。 ・気にしなくていいよ。 ・大丈夫だよ。 ・貝がらありがとう。	◇事前に教材の「～話しかけないようにしていた。」までを読んでおく。役割演技を通して、「ぼく」の気持ちを捉えることで、この後の心の変化について考えが深めるようにする。  ◇女の子に関する発言が出た時には「どうして笑ったのだろう。」や「女の子に対して気になったことはある？」などと問い返すことで第三者の視点に触れ、三者関係を整理できるようにする。 ◇中山君が話せない背景について深くおせられるようにする。 ◇ペア対話を入れ考えを深められるようにする。 ◇板書はそれぞれの立場ごとに発言を整理できるようにする。 ◇「～やっとわかった」までを読み、その後の展開について考えられるようにする。  ◇ペアで交代しながら役割演技をすることで「ぼく」の視点と中山君の視点を体験し、役割取得を促す。 [多]・ぼくの気持ちの変化と中山君が話せない理由を三者の立場から考えることを通して、相手のことを理解し認めていくことの大切さを考えている。
終末 10分	5. ワークシートに振り返りを書く。	○今日の学習で、感じたことや考えたことを書きましょう。	◇時間があれば何人が紹介し、考えを交流したい。 [自]自分の生活を振り返りながら、相手を理解し認めていくことの大切さについて感じている。

5 評価〔評価方法〕

[多] ぼくの気持ちの変化と中山君が話せない理由を三者の立場から考えることを通して、相手のことを理解し認めていくことの大切さを考えている。

[自] 自分の生活を振り返りながら、相手を理解し認めていくことの大切さについて感じている。〔発言・道徳ノート〕

5 他の教育活動との関連



6 板書計画

